

### “ブレない心”でストレスフリーの笛を

## 二階堂 俊介 (国際審判員)

#### < “ブレない心”でストレスフリーの笛を >

昨年10月、世界選手権のアジアオセアニア予選で国際審判員の試験に合格したばかりの二階堂俊介さん。1年未満での世界選手権への派遣は、大抜擢といえる。二階堂さん自身も派遣の通知メールが届いた時には喜びよりも、驚きが勝ったという。「しかも、同じ世界選手権に複数の日本人審判員が派遣されるのは初めてと聞いています。本当に光栄なこと、これまでやってきたことをしっかりと発揮したいと思います」

自身も大学までバスケットボールプレーヤーだった二階堂さんは、特別支援学校の教員時代に車いすバスケットに強い興味を抱き、その後、2004年アテネから4大会連続でパラリンピックの舞台で笛を吹いた大先輩の菅野英輔さんに師事し、車いすバスケットの審判員となった。

そんな二階堂さんは、恩師である菅野さんに教えていただいた「ブレない心」をモットーとしている。

「判定に波がないように、一瞬たりとも集中力を切らさないことが大事です。気持ちがブレていては、判定にも影響を及ぼしてしまう。一貫性のある笛を吹くためにも、1試合を通してブレない心が必要です」

審判は1試合、「クルーチーフ」人と副審2人の計3人でチームを組む。試合前は常に共に行動し、お互いを知るところから始まり、カンファレンスで試合について確認し合うのだという。

「世界選手権に派遣されているのは、各国のトップレフリーばかり。プライドも志も高い人たちばかりだと思います。その中で、いい意味で日本人らしく、でも遠慮することなく積極的にいくところはいい。そうしてお互いにリスペクトし合いながら、うまくゲームコントロールしたいと思います」

どのチームも、国の期待を背負い、本気で挑んでくる。だからこそ、時にはヒートアップする可能性もある。そんな時こそ、審判員の腕の見せどころだ。「選手やチームが判定に対してストレスなく、100%試合に集中できるような環境をつくるのが私たちの仕事です」と二階堂さん。

勝っても負けても、選手たちが納得した表情で握手を求めてきてくれた時こそが、最大の喜びだ。

